

# 地質調査技士に合格して

.....  
(株)東北地質 秋山 政一



それは突然起こりました。年度末の忙しい時期が例年よりやや早めに終わろうとしていたころ、とてつもない大津波を伴う大震災「3.11」です。

その後の状況は周知の通りです。私自身もライフラインの寸断で、自分の身の回りのことで精一杯の日々が1～2週間ほど続きました。このような状況の中、会社から緊急の連絡が入りました。震災に係わる仕事の連絡で津波追跡調査並びに土砂災害の緊急点検の現地調査を実施するとのことでした。この時、私は初めて直接被災地の現状を目の当たりにすることとなりました。

その状況は凄まじく、ただ啞然とするばかり。ここに住んでいた人達は、ここにあってであろう建物は、道路は、線路は……。

私はこれまで、3度地質調査技士の検定試験を受験しましたが、何れも不合格の結果となっていました。ただその結果に対し、それほど悔しいと思うこともなく、当然といえば当然の結果と認識していました。これまでボーリング助手を主体として地質調査の仕事に携わってきた私にとって、地質調査技士の資格とは、ボーリング機長として必要な資格と考えておりましたから、その時まで取得すればよい資格でもあったわけです。従っ

て、その資格試験に取り組む姿勢は決して積極的なものではありませんでした。

勉強方法といえば定番のボーリングポケットブックを試験直前になってからようやく目を通し、慌てて過去の問題集や受講テキストの問題を解くというような、付け焼き刃的なものでした。このようなことを毎回繰り返していましたから、不合格となるのも当然であったと思います。また、まだ経験年数が足りないからとか、仕事が忙しく勉強に十分な時間がとれなかったからなどと自分に言い聞かせていたように思えます。

しかし、今回起こった未曾有の大震災、その惨状を目の当たりにしたとき、今回は何としても合格したいという強い気持ちがありました。震災絡みの仕事により例年より忙しい状況でありましたが、時間があれば参考書に目を通すようにし、何とか合格することができました。

震災後、復興に係わる調査が非常に多くなっています。そしてこれから数年はこのような環境の中で仕事に従事することが続くものと思われます。今後は、震災復興の為の仕事に従事できることに感謝の気持ちを持ちながら、日々精進し、地質調査技術者としての誇りを持って社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

## 東邦技術（株） 藤田 裕幸



現在私は、会社で室内土質試験に従事しております。この度は地質調査技士の「現場技術・管理部門」の土質試験コースを受験させていただきました。

土質試験コースの試験は隔年での実施であるため、今年を逃してしまうと次に受験できるのは2年後となってしまふことから相応のプレッシャーがありました。そこで私は、確実な知識を得るために事前講習会を受講させていただくことにしました。地質調査技士検定試験は幅広い分野から出題されるため独学だけですべてを網羅することは困難であると思えたためです。また試験で問われる内容は、法規や測量・ボーリング技術の知識など今後地質調査の仕事に携わっていく上で重要なものですので、有資格者を目指す者としてこれを機会に正しく理解したいという思いもありました。

事前講習会は2日間にわたり各分野ごとに講師の先生方が講義をしてくださいました。最新の事情や出題傾向の高い重要分野の説明を受けることができ、試験勉強のポイントや試験の全容を把握するためにはとても役立ちました。

特に勉強になったことは筆記試験の対策です。今まで、記述式の試験というものは殆ど受験したことがなく、文章のまとめ方や試験に向けての準備事項などを知ることができ、とても助かりました。

もちろん、たった2日で試験対策が完全になるわけではありませんので、後は帰ってからの自学自習です。私はまず講習会でポイントとして聞いた箇所の復習と暗記を行いました。調査機器の各部の名称や必要な法規の内容などを暗記し、その上で過去

問をとき、間違った箇所をもう一度暗記という繰り返しです。

記述問題の経験論文は、講習会で習った文章の組み立て方にしがたって実際に原稿用紙に書いてみたものを上司に添削してもらいました。何度か訂正を加えたものを頭に叩き込み内容の要点と文章の流れを覚えようと努めました。

他の記述問題に関しては、土質試験に関する問題だけは必ず選択したいと考え、試験方法を赤本などで確認するなどの対策をとりました。

試験当日、選択問題に関しては確かな手ごたえを得ることができました。試験後に貼り出された解答での自己採点でもまずまずの正答率だったため、安堵したことを覚えています。

記述試験を受験して何より大変だったことは、答案の後半は手が疲れてしまい、丁寧な字を書くことが困難だったということでした。字を書く機会が少なくなっているせいですので、勉強のほかに長文を書く練習をもっとするべきだったと反省いたしました。

結果、無事に合格できたことをうれしく思います。

試験勉強をする上で、事前講習会に参加できたことが特に有意であったと私は思いました。試験の傾向やポイントを教わることで勉強の方向性がかめられたため、広い試験範囲に対応できたのだと考えています。

今後も学ぶ姿勢を持ち続け、地質調査技士として恥じない仕事ができるよう努めていきたいと思っております。